

シンポジウム

生物学史と生物教育

主催：日本科学史学会生物学史分科会・STS Network Japan

日時：2013年6月30日（日）13：30-17:00

場所：エル大阪（大阪府立労働センター）701号室

（アクセス：京阪・地下鉄谷町線「天満橋駅」より西へ300m.）

<http://www.l-osaka.or.jp/pages/access.html>（地図は下を参照）

2012年からはじまった高等学校の新課程の生物では、メンデルの法則などの古典的な記述が削られ、現代的に改訂されたことが話題になりました。このシンポジウムでは、この機会にこれまでの生物学教育と生物学史を振り返り、これからの生物学史の役割を議論したいと思います。かつて『生物学史研究』には生物教育関連の論考も掲載されることが多かったのですが、最近は少なくなってきています。その背景には、科学史研究の変容や STS の確立などさまざまな要因があるでしょう。新たに科学コミュニケーションという領域も登場しつつあります。科学コミュニケーションの一つとしての教育の中で、歴史的な知識はどのような役割を担うのでしょうか。科学史研究と教育現場との対話から探っていきたいと思います。

加納圭（滋賀大学教育学部）

現代化運動ともいわれる新課程高校生物における生物学史の取扱

塩川哲雄（大阪府立布施高等学校）

高等学校における生物学史教材の実践—体系的教材の試作と単発的な題材の紹介—

福井由理子（東京女子医科大学）

生命科学関連の専門職養成大学の教育と生物学史／科学史

（コメンテーター等は調整中です。最新情報は生物学史分科会ホームページを確認してください。）

